

播磨地方における若年層の命令表現 についての考察

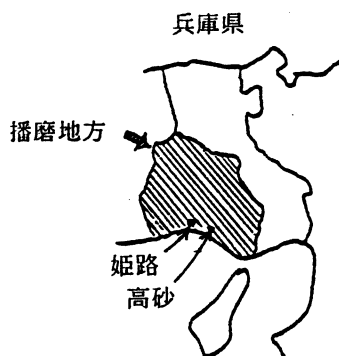
辻 井 輝 行

1 調査研究のねらい

兵庫県播磨地方においては、現在、若年層の命令表現に特徴がみられる。本稿では、兵庫県立松陽高等学校の生徒の実態調査を中心に、若い人びとの日常会話での命令表現について、どのような傾向があるのか、またその傾向が何に起因しているのかを探ることをねらいとした。

2 調査対象地域及び対象者

播磨地方は下図の如く、兵庫県の中西部を占める地域である。中心的な都市としては姫



路が最大で、他に明石、加古川、高砂、相生などがある。県立松陽高校のある高砂市は、播磨地方のほぼ中央に位置しており、姫路市の東に隣接し、瀬戸内海に面した工業都市である。県立松陽高校は、工場群の立ち並ぶ西部臨海地区に位置している。

調査の対象とした生徒は、三年生136名、一年生142名の計278名である。このうち、転居移入状況は、次の通りである。

移入前の地域	播磨地区内	62名
	播磨地域外	31名
移入時期	小学入学以前	67名
	小学入学以降	26名

なお、この中で、小学入学以降に播磨地域外から転居してきた者は21名であった。

3 調査の概要

○調査内容

「日常会話の命令形」のプリント

「日常会話の中での命令表現」のアンケート

○調査対象

兵庫県立松陽高等学校普通科

三年	136名（男42名、女94名）
一年	142名（男45名、女97名）
計	278名（男87名、女191名）

○調査実施期間

昭和60年5月

4 調査方法

第一段階として、まず、一つのクラスで、授業中に「日常会話の命令形」のプリントを配り、普段使用している命令表現をできるだけ多く記入するように指示した。なお、このプリントの冒頭部分には「私達は、日常会話の中で、相手に命令する時、どのような表現をするか考えてみよう。命令する相手が、自分の仲間、友人の場合を想定して、次の動詞の命令表現を書いてみよう。二つ以上あれば、全て答えて下さい。」と記し、各種の動詞活用型を含む次の23語についての命令表現を記入させた。

書く　働く　立つ　笑う　勝つ　聞く　着る　見る　似る
生きる　過ぎる　起きる　落ちる　恥じる　下りる　考える
当てる　寝る　出る　分ける　食べる　する　来る

この調査によって得た命令表現の用例を、以下の手順で整理した。

- ① 「書けや」「来んかい」等、文末助詞を伴うものは省く。
- ② 「食べり」の場合のように、ごく一部の限られた動詞でしか答えていないものは省く。
- ③ 「見れ」「落ちれ」「分けれ」等、上一段型動詞や下一段型動詞では大半がこの形態を回答しているため、全体を通して比較する意味で、五段型動詞には少ない「笑えれ」「働けれ」等一部の五段型動詞の特殊な形は残す。

この手順によって、全ての活用型の動詞で、各々の用例が、できる限り揃うようにして、「日常会話の中での命令表現」のアンケート表を作成した。

日常会話の中での命令表現　（ ）年（ ）組　氏名（ ）

私達の日常会話の中で、他人・相手に命令したり、指図したりする時、必ずしも学校で学習した文法(学校文法)通りに言わない場合がある。あなたは、次のことば(動詞)のどの形を使用しますか。使うものの全てに○印をつけて、選んでください。使わないものには×印をつけてください。

(例) このジュースを $\left[\begin{array}{l} \text{ア 飲め (○)} \\ \text{イ 飲めれ (×)} \\ \text{ウ 飲みイ (○)} \end{array} \right.$ 僕の(私の)質問に $\left[\begin{array}{l} \text{ア 答えろ (×)} \\ \text{イ 答えよ (×)} \\ \text{ウ 答えれ (○)} \\ \text{エ 答えエ (○)} \end{array} \right.$

か 書く $\left[\begin{array}{l} \text{ア 書け ()} \\ \text{イ 書けれ ()} \\ \text{ウ 書きイ ()} \end{array} \right.$ はたら 働く $\left[\begin{array}{l} \text{ア 働け ()} \\ \text{イ 働けれ ()} \\ \text{ウ 働きイ ()} \end{array} \right.$ た 立つ $\left[\begin{array}{l} \text{ア 立て ()} \\ \text{イ 立てれ ()} \\ \text{ウ 立ちイ ()} \end{array} \right.$

わら 笑う $\left[\begin{array}{l} \text{ア 笑え ()} \\ \text{イ 笑えれ ()} \\ \text{ウ 笑いイ ()} \end{array} \right.$ か 勝つ $\left[\begin{array}{l} \text{ア 勝て ()} \\ \text{イ 勝てれ ()} \\ \text{ウ 勝ちイ ()} \end{array} \right.$ き 聞く $\left[\begin{array}{l} \text{ア 聞け ()} \\ \text{イ 聞けれ ()} \\ \text{ウ 聞きイ ()} \end{array} \right.$

き 着る $\left[\begin{array}{l} \text{ア 着ろ ()} \\ \text{イ 着よ ()} \\ \text{ウ 着れ ()} \\ \text{エ 着イ ()} \end{array} \right.$ み 見る $\left[\begin{array}{l} \text{ア 見ろ ()} \\ \text{イ 見よ ()} \\ \text{ウ 見れ ()} \\ \text{エ 見イ ()} \end{array} \right.$ に 似る $\left[\begin{array}{l} \text{ア 似ろ ()} \\ \text{イ 似よ ()} \\ \text{ウ 似れ ()} \\ \text{エ 似イ ()} \end{array} \right.$

い 生きる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 生きろ ()} \\ \text{イ 生きよ ()} \\ \text{ウ 生きれ ()} \\ \text{エ 生きイ ()} \end{array} \right.$ す 過ぎる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 過ぎろ ()} \\ \text{イ 過ぎよ ()} \\ \text{ウ 過ぎれ ()} \\ \text{エ 過ぎイ ()} \end{array} \right.$ お 起きる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 起きろ ()} \\ \text{イ 起きよ ()} \\ \text{ウ 起きれ ()} \\ \text{エ 起きイ ()} \end{array} \right.$

お 落ちる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 落ちろ ()} \\ \text{イ 落ちよ ()} \\ \text{ウ 落ちれ ()} \\ \text{エ 落ちイ ()} \end{array} \right.$ は 恥じる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 恥じろ ()} \\ \text{イ 恥じよ ()} \\ \text{ウ 恥じれ ()} \\ \text{エ 恥じイ ()} \end{array} \right.$ お 下りる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 下りろ ()} \\ \text{イ 下りよ ()} \\ \text{ウ 下りれ ()} \\ \text{エ 下りイ ()} \end{array} \right.$

かんが 考える $\left[\begin{array}{l} \text{ア 考えろ ()} \\ \text{イ 考えよ ()} \\ \text{ウ 考えれ ()} \\ \text{エ 考えエ ()} \end{array} \right.$ あ 当てる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 当てろ ()} \\ \text{イ 当てよ ()} \\ \text{ウ 当てれ ()} \\ \text{エ 当てエ ()} \end{array} \right.$ ね 寝る $\left[\begin{array}{l} \text{ア 寝ろ ()} \\ \text{イ 寝よ ()} \\ \text{ウ 寝れ ()} \\ \text{エ 寝エ ()} \end{array} \right.$

で 出る $\left[\begin{array}{l} \text{ア 出ろ ()} \\ \text{イ 出よ ()} \\ \text{ウ 出れ ()} \\ \text{エ 出エ ()} \end{array} \right.$ か 分ける $\left[\begin{array}{l} \text{ア 分けろ ()} \\ \text{イ 分けよ ()} \\ \text{ウ 分けれ ()} \\ \text{エ 分けエ ()} \end{array} \right.$ た 食べる $\left[\begin{array}{l} \text{ア 食べろ ()} \\ \text{イ 食べよ ()} \\ \text{ウ 食べれ ()} \\ \text{エ 食べエ ()} \end{array} \right.$

する $\left[\begin{array}{l} \text{ア しろ ()} \\ \text{イ せよ ()} \\ \text{ウ シイ ()} \\ \text{エ セエ ()} \end{array} \right.$ く 来る $\left[\begin{array}{l} \text{ア こい ()} \\ \text{イ これ ()} \\ \text{ウ きれ ()} \\ \text{エ きイ ()} \end{array} \right.$

調査の第二段階としては、全対象生徒からアンケートを求めた。授業時に、このアンケート用紙を配り、それぞれの選択肢の中で、用いている語形には○印を、用いていない語

形には×印を付して答えさせた。なお、回答に際しては不断の仲間同士での会話を想定することを付け加えた。

5 結果の概要

(1) 本来の命令形による命令表現（以下、『命令形』で表すこととする。）

〈男子〉

五段型動詞をカ変型動詞で、ほぼ90%以上。

上一段型動詞と下一段型動詞では「着ろ」「落ちろ」等、「ーろ」形がほぼ50%程度であるのに対し、「着よ」「落ちよ」等、「ーよ」形は10～20%程度である。

サ変型動詞でも「しろ」が43.9%であるのに対し、「せよ」は15.9%で、一段型動詞の「ーろ」形と「ーよ」形との使用率の差と非常に近いものになっている。

〈女子〉

五段型動詞で、ほぼ50%、カ変型動詞で、41.0%。

上一段型動詞と下一段型動詞では、「ーろ」形が15～40%、「ーよ」形が6～36%である。

(2) 本来の『命令形』以外の命令表現

ア 連用形による命令表現

当地方でよく使用されている命令表現に、連用形中止の形がある。「読みィ」「書きィ」のように、連用形の語尾を少し延ばすことで命令表現として用いる。

〈男子〉

全体として、『命令形』による命令表現ほどの使用はないものの、最低でも「生きィ」の32.9%である。特に注目すべきは、本来の上一段型動詞における使用率で、この場合は『命令形』による命令表現の使用を上回っている。

〈女子〉

全ての活用型の動詞において、この連用形中止形による命令表現が一般的に行われている。使用率の最も低い「恥じィ」でも、53.6%である。

イ「ーれ」形による命令表現

最近、高校生の間で「早^はよ出れ」（早く出ろ）、といった表現をしているのを耳にすることがある。この項では「ーれ」形による命令表現をとりあげる。

〈男子〉

五段型動詞とカ変型動詞では、最高でも「立^はてれ」の3.7%と、全体に低い使用率である。これに対し、上一段型動詞と下一段型動詞では、この形が一般的である。最低でも「似^はれ」の52.4%であり、大半が80～90%の使用率である。

〈女子〉

五段型動詞とカ変型動詞では、ほぼ男子と同程度の使用率である。これに対し、上

一段型動詞と下一段型動詞では、最高が「落ちれ」の63.9%で、他はほぼ30～50%程度と、男子に比べて使用率は低い。しかし、五段型動詞とカ変型動詞以外では、『命令形』による命令表現よりも、高い使用率を示している。

アンケート回答率（パーセント）						左：男子 右：女子	
書け	96.3	46.4	働け	91.5	49.7	立て	93.9 53.6
書けれ	0.0	1.1	働けれ	0.0	0.5	立てれ	3.7 2.7
書きい	63.4	97.3	働きィ	61.0	91.8	立ちィ	45.1 91.8
笑え	93.9	43.7	勝て	91.5	59.0	聞け	89.0 51.4
笑えれ	0.0	0.0	勝てれ	0.0	1.1	聞けれ	0.0 1.1
笑いィ	59.8	94.5	勝ちィ	61.0	86.3	聞きィ	63.4 94.5
着ろ	52.4	21.4	見ろ	54.9	30.6	似ろ	37.8 15.3
着よ	11.0	13.1	見よ	14.6	16.9	似よ	8.5 6.6
着れ	86.6	37.2	見れ	91.5	39.9	似れ	52.4 30.1
着ィ	63.4	84.7	見ィ	65.9	92.9	似ィ	45.1 59.0
生きろ	57.3	19.7	過ぎろ	47.6	21.4	起きろ	67.1 38.3
生きよ	20.7	21.9	過ぎよ	4.9	9.3	起きよ	29.3 36.1
生きれ	76.8	40.4	過ぎれ	78.0	43.2	起きれ	79.3 47.5
生きィ	32.9	62.3	過ぎィ	34.1	60.1	起きィ	65.9 83.6
落ちろ	59.8	38.8	恥じろ	28.0	12.6	下りろ	59.8 40.4
落ちよ	13.4	10.9	恥じよ	7.3	12.0	下りよ	19.5 33.3
落ちれ	91.5	63.9	恥じれ	54.9	35.0	下りれ	90.2 44.8
落ちィ	39.0	68.9	恥じィ	39.0	53.6	下りィ	70.7 79.8
考えろ	54.9	31.7	当てろ	58.5	31.1	寝ろ	61.0 40.0
考えよ	13.4	27.3	当てよ	20.7	25.1	寝よ	11.0 27.9
考えれ	89.0	52.5	当てれ	89.0	49.1	寝れ	91.5 45.9
考えィ	57.3	78.1	当てィ	47.6	76.0	寝ィ	67.1 79.8
出ろ	64.6	30.6	分けろ	61.0	33.3	食べろ	58.5 36.1
出よ	13.4	21.3	分けよ	15.9	27.3	食べよ	18.3 29.0
出れ	92.7	47.0	分けれ	92.7	41.5	食べれ	86.6 41.0
出ィ	62.2	73.8	分けィ	62.2	78.7	食べィ	40.2 79.8
しろ	43.9	19.1	来い	95.1	41.0		
せよ	15.9	12.0	これ	0.0	2.2		
しィ	51.2	94.0	きれ	0.0	0.5		
せィ	95.1	45.4	きィ	47.6	91.8		

6 結果の考察

男子においては、五段型動詞とカ変型動詞で、ほぼ本来の『命令形』による命令表現を行っている。そして、男子においてはそれ以外の活用型動詞、女子においては全ての活用型動詞で、「書きィ」「見ィ」等のような連用形中止による命令表現や、「見れ」「起きれ」「出れ」等のような「ーれ」形による命令表現が、一般的な形として使用されている。

次に、このような高校生の命令表現形式の使用の実態はどこに起因しているのかを知るために、当地域で生まれ育った成年層にも調査を行った。

〔A〕30歳・男性 五段型動詞では全て『命令形』による命令表現のみを使用。上一段型動

詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形を9例中6例使用、「ーよ」形は9例中6例使用、「ーよ」形は9例中8例使用。連用形による命令表現、及び「ーれ」形による命令表現は、ともに使用せず。下一段型動詞では、全て『命令形』による命令表現の「ーろ」形が使用され、「ーよ」形は6例中2例使用。連用形による命令表現、及び「ーれ」形による命令表現は、ともに使用せず。サ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに、「しィ」「せェ」を使用。カ変型動詞では『命令形』による命令表現のみを使用。

〔B〕54歳・男性 五段型動詞では全て『命令形』による命令表現のみを使用。上一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形を9例中2例使用、「ーよ」形は9例中7例使用。連用形による命令表現、及び「ーれ」形による命令表現は、ともに使用せず。下一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形は6例中2例使用、「ーよ」形は6例中4例使用。連用形による命令表現、及び「ーれ」形による命令表現は、ともに使用せず。サ変型動詞では『命令形』による命令表現の「せよ」のみを使用。カ変型動詞では『命令形』による命令表現のみを使用。

〔C〕55歳・男性 五段型動詞では全て『命令形』による命令表現のみを使用。上一段型動詞、及び下一段型動詞では、全て『命令形』による命令表現の「ーろ」形のみを使用。サ変型動詞では、『命令形』による命令表現の「しろ」と、「せェ」を使用。カ変型動詞では『命令形』による命令表現のみを使用。

〔D〕27歳・女性 五段型動詞では、『命令形』による命令表現は6例中2例使用。連用形による命令表現は6例全て使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。上一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形は使用せず、「ーよ」形は9例中8例使用。連用形による命令表現は9例全て使用。「ーれ」形による命令表現では9例中4例使用。下一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形は使用せず、「ーよ」形は6例中5例使用。連用形による命令表現では6例中5例使用。「ーれ」形による命令表現は6例中1例使用。サ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに「しィ」のみを使用。カ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに「きィ」のみを使用。

〔E〕32歳・女性 五段型動詞では、『命令形』による命令表現は6例中1例使用。連用形による命令表現は6例中1例使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。上一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形は9例中3例使用、「ーよ」形は使用せず。連用形による命令表現は9例中3例使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。下一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形は6例中4例使用、「ーよ」形は使用せず。連用形による命令表現、及び「ーれ」形による命令表現は、ともに使用せず。サ変型動詞では、『命令形』による命令表現の「しろ」と「しィ」を使用。カ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに「きィ」のみを使用。

〔F〕55歳・女性 五段型動詞では、『命令形』による命令表現は使用せず。連用形による命

命令表現は6例全て使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。上一段型動詞では『命令形』による命令表現の「ーろ」形も「ーよ」形も、ともに使用せず。連用形による命令表現は9例中全て使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。下一段型動詞では、『命令形』による命令表現の「ーろ」形も「ーよ」形も、ともに使用せず。連用形による命令表現は6例全て使用。「ーれ」形による命令表現は使用せず。サ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに「しィ」のみを使用。カ変型動詞では、『命令形』による命令表現を使用せずに「きィ」のみを使用。

これらの回答が、そのまま当地方の言い方であると断言することは早計かも知れないが、有力な参考資料となるであろう。これら成年層の回答も含め、次の各々の観点から考察してみる。

(1) 年齢差

成年男性では、ほぼ『命令形』による命令表現を使用し、連用形による命令表現や「ーれ」形による命令表現は、サ変型動詞とカ変型動詞での例を除いて、使用していない。これに対し成年女性では、ほぼ連用形による命令表現を使用している。しかし、〈[E]32歳・女性〉では、ある程度『命令形』による命令表現の使用もある。また〈[D]27歳・女性〉では『命令形』による命令表現と同時に、上一段型動詞の「過ぎる」「起きる」「落ちる」「恥じる」の4例と、下一段型動詞の「分ける」の1例で、「ーれ」形による命令表現を使用している。

この〈[D]27歳・女性〉の使用例は、高校生の使用例（イ 「ーれ」形による命令表現、の項参照）に近いものである。つまり、鎌田良二氏の言う「一段動詞の五段化」は若年層を中心にして、あるいは若年層から広がりつつある状態であるといえるであろう。

(2) 男女差

前項（年齢差）でも少し触れたが、男女間での使用差が非常にはっきりと現れていることに気づく。すなわち、高校男子では『命令形』による命令表現や、「ーれ」形による命令表現を主に使用し、高校女子では、主として連用形による命令表現を使用している。

これはおそらく、語調の強さ、やわらかさ、に関係があるように思われる。つまり、「書け」というより「書きィ」の方が、「着れ」というより「着ィ」の方が、聞こえの印象がやわらかく響くために、女子に用いられているのではないかと考えられる。

(3) 活用型による差

『命令形』による命令表現と、「ーれ」形による命令表現との間に、興味深い関係があることに気づく。まず男子においては、五段型動詞での『命令形』による命令表現と、上一段型動詞と下一段型動詞での「ーれ」形による命令表現の使用率は、

ともにほぼ90%である。それに対し女子においては、五段型動詞での『命令形』による命令表現の使用率はほぼ50%、上一段型動詞と下一段型動詞での「-れ」形による命令表現の使用率はほぼ30~50%である。このように、五段型動詞での『命令形』による命令表現と、上一段型動詞と下一段型動詞での「-れ」形による命令表現の使用率は、男子ではどちらもほぼ90%、女子ではほぼ30~50%と、男女それぞれの中で、ほぼ一致している。

これは、五段型動詞での『命令形』による命令表現と、上一段型動詞と下一段型動詞での「-れ」形による命令表現の語感に対し、同一もしくはよく似た感覚を持っているためであろうと考えられる。

7 まとめ

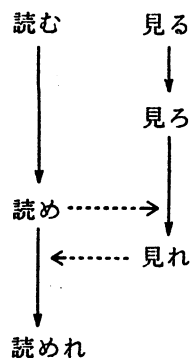
この調査結果を通して得られた当地域の高校生の命令表現の用法に対しての私見をまとめれば以下の通りである。

- (ア) 『命令形』による命令表現と、連用形による命令表現には、語調ないし語感に差がある。すなわち、『命令形』による命令表現は強い語調であり、男子に好まれるのに対し、連用形による命令表現はやわらかい語調であるため女子に好まれる。
- (イ) 五段型動詞での『命令形』による命令表現と、上一段型動詞と下一段型動詞での「-れ」形による命令表現のもつ語調ないし語感は、男女それぞれの使用率から考えて、近いものといえる。
- (ウ) 上一段型動詞、下一段型動詞、サ変型動詞での『命令形』による命令表現は固い感じがともない、口頭語的でなく、日常会話には適さない。特に「-ろ」形よりも「-よ」形の方が、その感じが強い。それに比べて「-れ」形による命令表現の方が、より口頭語的であり、おそらく五段型動詞における『命令形』による命令表現に対する意識と同じ感覚で男女ともに用いているのであろう。また、サ変型動詞の「せよ」も固い感じがともなうために、よりくだけた形として「せえ」が生まれたものであろう。

- (エ) 「-れ」形の発生について、簡単に触れておきたい。この

形については「一段動詞の五段活用化」として、よく説明されている。私はこの「一段動詞の五段活用化」を否定するものではない。しかし、この調査を始めた時、高校生の間で「読めれ」とか「見り」とかいった例も用いていることに気づいた。これらの用例を眺めていると右に示したような変化の過程が考えられる。これには当然、次の二つの条件が作用しているものと考えられる。

- a 五段型動詞の命令形はエ段音で終わる。
- b 五段型動詞以外の動詞の終止形は「ル」である（活用語



尾が「ラ」行である）。

もともと「見ろ」というような「ーろ」形は、日常会話の命令表現として、語感のうえで、かならずしもふさわしいものではなかった。そこへ、五段型動詞の命令形が「エ」段音であることが作用し、「見れ」という語形が生じた。

そして、「見れ」など「ーれ」形による命令表現が一般的になると、これが五段型動詞に影響し（五段型動詞以外の動詞の終止形は「る」であることも作用し）、「読めれ」の形が追って生じた。

さらに、「見れ」が一般的に用いられるようになってから、「一段動詞の五段活用化」であろうか、五段型動詞での連用形による命令表現の使用が影響し、すなわち五段型動詞の連用形はイ段音であることが影響し、「見り」のような形が後れて発生したものと考えられる。

注 1 文語文法における上一段型動詞で、ここでの用例は「着る」「見る」「似る」の 3 語

注 2 鎌田良二「兵庫県方言」（『講座方言学 7 ー近畿地方の方言ー』昭和 57 年 10 月 国書刊行会）238 頁

注 3 五段型動詞とカ変型動詞の中で、ほとんど 0 % に近いにもかかわらず、「立てれ」が 3 % 程度の使用率を示したのは、「立つ」と「立（建）てる」の混同から来ているものと考えられる。

注 4 山口大学人文学部、添田健治郎氏より、「それぞれの動詞の持っている意味が、その命令表現形式の使用率に大きな影響を及ぼしているのだろう。」と御教示をいただく。

注 5 鎌田良二「兵庫県方言」（『講座方言学 7 ー近畿地方の方言ー』昭和 57 年 10 月 国書刊行会）238～239 頁

鎌田良二『兵庫県方言文法の研究』（昭和 54 年 2 月 桜楓社）52～53 頁